



もうすぐ春ですね 冬来たりなば、春遠からじ

ことのほか、今年の冬は寒くて雪が多いようです。雪は溶けてしまえばただの水ですから、雪国ではいつものことながら処置に困っているようです。岡山の南部に住んでいる者にとっては、時に雪が降るのは珍しくて楽しみもあるのですが・・・

1 政財界の新陳代謝

倉敷にある倉敷化工の名誉会長だった秋山政彦氏が1月末に亡くなられた。惜しい人を亡くした。人柄のよい人で、私が好きな人だった。面識ができたのは10年以上前になる。経済界の人との接触が始まった最初の頃に知り合った人で、顔を合わせると丁寧に挨拶をしてくれました。思えば、ここ10年余の間にはかなりの人が亡くなったり、一線から身を引かれて公のところにはあまり顔をだされなくなって2世・3世の人が入会などされて、世代の交代を感じる。

振り返ると、10年一昔前ということになれば、私が40代後半から50代の前半の青二才であった。政財界をはじめ世の中はあまり知らなかったが、指導的立場の人たちに随分助けられて今日まで来た。経験的には、私の知る限り健康であれば、80才以上まで元気に働けるようだから、まだこれからの人生は長い。油の乗る時期がこれから始まるころだと考えているから、文筆業へ転向しようかと冗談に言っているところです。現実には、社会を動かしている支店長クラス層は40才から50才代といえるから、後進の後輩たちのためにも道を切り開いておく必要があります。世代交代を体感しています。私はまだこれからですからガンバリたい。

2 15秒コマーシャル

自分の言いたい事を15秒間にまとめてアピールする。15秒は短いようで、結構長いのです。

いわゆるコピーライターという職業の人がいる。他人に訴えたいことを15秒間にまとめる訓練をすれば、結構凝縮した迫力ある面白い文章が出来上がります。美辞麗句がなく形容詞も少なく、ずばり話せるようになります。同じことが文章でも言える。限られた字数の中に収める訓練が大切なようです。ただ今、考えている魂の雄たけびを15秒間にまとめてみてください。話し方、あるいは書き方教室ならぬ自宅学習になり、よい勉強になると思います。

3 三菱自動車の立ち直り

三菱自動車の製作所が水島工業地帯にあり、倉敷経済に占める割合は高い。どうも売れ行きが悪いらしい。スリーダイヤで代表される三菱グループを創立された岩崎弥太郎さんは高知県安芸市に生まれた。現在生家跡はある。私は四国八十八ヶ所めぐりの途中などで2回立ち寄った。都へは遠い遠い片田舎から青雲の志を抱いて混乱期の明治初期に「政商」として財をなしたのである。100有余年の間に財閥として日本で最大規模のトップ経済グループを形成したのである。三菱グループの全容や詳細は知らないが、とにかくすごいのである。お金の援助はたやすくできるグループである。従来はそういう形で助け合ってきたし、その方式で乗り越えることが出来た。

しかし、昨今は、お金のサポートだけでは難しいようだ。商品である車に対する安全、安心が担保されなければ買い手による購買力の回復が難しいということだろう。車が売れなければどうにもならない。クレーム隠しは大きな代償を支払うことになった。そこで、私はまず三菱グループの人達が、率先して車を買って求めて乗り回し、安全性を世に訴えることが一番の特効薬だと思う。街中を三菱の車が走りまくれば、信用が回復される。

それにしても、三菱といえば名門でエリートの集団である。入社されている偏差値が高い優秀な人は、×式に強く結論がはっきりして解答のある問題にはめっぽう強い。しかし、不透明な状態から将来の光明を見つけ出すような手さぐりの混沌とした経済状況には苦手なのかもしれない。組織・資金力・人材などすべて備わっている最強のグループではあるが、立ち直るのは容易なことではないだろう。まず問題解決のスピードとクレーム等を隠さない体質、さらに仲間意識で車という商品を、不安が多少あっても買ってあげる気持ちのやさしさが必要だろうと思う。

4 公務員制度の改革を

小泉内閣はなぜ公務員制度に手をつけないのだろうか？ 公務員OBの政

治家は、組長を初めいたところにいる。現役の公務員とOB組とが手をつなぐから最後は馴れ合いになって解決が難しくなって改革は頓挫する。

しかし、財政危機の時代、どうすればよいかは、誰が考えても分かっているはずだ。マスコミはこの本質を捉えた改革論議をしなければならない。公務員制度でおかしいと思うのは「失業」を考えていないことだ。失業保険を掛けていない、すなわち失業という事ははじめから想定していないのである。どんな立派で大きな企業でも失業保険は支払っている。山一証券や一流銀行などのように、この地上から姿を消してなくなる会社だって現にあるのだから・・・。

また、国民から公務員の懲戒処分を申し立てる制度がないのである。裏を返せば国民から批判されるような行為をしないという“性善説”に立っているということである。現実社会では、そんなことはないはずだが、申立の制度が担保されていないのであるから、公務員は立派な人たちの集まりなのであろう。もちろん、内部での懲戒処分は行われているのであるが、刑法犯や規律違反などが原因で処分されるのだろう。

だから、必要以上に仕事をして、もし失敗でもしたら国民に迷惑をかけたということで、責任をとらされて処分の対象になるから、必然的に事なかれ主義になる。従って、議論をとっても嫌がる。外部からの批判を疎ましく思い、攻撃してくるものには敵意すら持つようになる。このあたりが企業などと違う体質である。

よって、休まず遅れず自分だけ飛びぬけず、みんな仲良くして自分だけ仕事をし過ぎないように、さらに全体で調整をとるようになる。長い間そういう世界に住んでいると慣れてくるから、仮に私が公務員であったとしても公務員の体質に馴染むであろう。しかし、公務員の殻から飛び出して組長さんになっているユニークな人たちもいるから、全体を十把一絡げ(じっぱひとからげ)には言えないのだが・・・。

それにしても、制度的に一般人から見て納得のいく制度に改革する必要がある。また、アウトソーシングを盛んに取り入れているが、外に出すだけ自分たちの仕事は少なくなるはずだから、人員を減らす必要があり、本当に必要とするところに移行させる人事異動がなされなければならない。財政悪化により公務員への給料が支払えない時代が、そう遠くない時代に来るのではないかと心配している。そういうことになってからでは遅いので今から制度改革し、かつ公務員自らの意識改革が必要になるでしょう。

5 退職者に再就職の場を提供

60才定年が一般的で、そのあと数年面倒を見てもらって雇用関係は終了するという場合が多い。まだ健康で働く意欲があるにもかかわらず働く場所がなく困っている人は多いのです。年金が入るからさほど収入はなくても、とにかく、社会の一員として世の中で働いていたいということです。

私のところにも再就職したという話をされる人もいるため、私は以下のように考えたのです。還暦以上の人で働きたい人を登録してもらい、必要とする人のところに派遣する。相応の報酬はもらう。ボランティアでは、長続きしないし無責任になる。例えば、困りごとを抱えているので心配だが、弁護士に相談するのも敷居が高い。公の相談所にも行きにくい。あるいは話し相手が欲しいなど、さまざまな問題に対応できる体制づくりを組織だてることです。従って多方面からの人材が必要です。警察・公務員・会社を退職した人など、それぞれの特技あるいは才能を、必要とするそれぞれの場面に応じて、結び付けるのです。

変わったところでは、少子化の時代になると結婚式や葬式で人数が足りないというようなことがおきた場合、にわか親族として参画するのです。その場合依頼者の社会的水準にあった人材を派遣できるように多数・多様な人を集めておく必要があるでしょう。私は自由業のため、再就職は心配しなくてもよいのですが、友人・知人などが、家庭の事情なども起因して、働きたいという方は多いので、こういうシステムを是非つくりあげたいのです。ゆくゆくは24時間・365日稼働させることが必要になってきます。SOSがあればすぐ出動という体制が要求されます。体制の構築だけは立ち上げたいと思う。ご協力ください。お願いします。

6 県は市・町へ払い下げを

岡山市とNPO法人中国定期借地借家権推進機構及びハウスメーカー18社が共同して、岡山市所有の住宅分譲地を売り出したところ、完売した。官民一体による共同企業体をつくることの大切さを確認したところであり、先日シンポジウムを開催した。内容的には中身の濃いものであった。近日中、弊社のホームページにシンポジウムの内容及び中国銀行永島頭取の特別記念講演を掲載する予定ですので、アクセスしてくださればと思います。

ところで、岡山県は、岡山市・吉備中央町・真庭郡落合町・倉敷市などに完売していない住宅地などを持っているし、工業団地なども多くもっている。これらを市町へ払い下げて岡山県住宅供給公社などを解体・清算した方がよい。

なぜなら、市町は固定資産税を無税にすることだって政策的には可能であ

る。定期借地権制度を活用すれば、当然市町の所有であるから、固定資産税の課税はしない。すなわち、課税権をもっているものが所有権を兼ねて活用する方が、料理がしやすいということである。もし、県と力関係がなくなり、県が困るといっているのであれば、「院政」を敷いておくような方針を考えればよいのではないかと思う。いずれにせよ、いつまでも売れない土地を持っていてもどうにもならないし、金利負担が大きくなるだけだから早い処分が望まれる。

7 歴史に学ぶ

歴史は繰り返す。人間は同じ失敗を飽きもせず行っている。今の日本の経済・政治状況は、日本の過去の歴史の中でもたびたび遭遇したことであった。私たちは、歴史を学ぶ必要があると思う。すなわち、歴史を勉強することにより、先人達と同じような場面にでくわした時に、解決に向かってどのような努力を重ねてきたか、という事を学ぶことができるからである。

ところで、私は、高校生のテキストである「新詳説日本史」及び「詳説世界史」を買ってきた。少しずつでも時間の合間を見て眺めている。結構カラー写真などが配置され、昔、私が使ったものよりずっと立派である。「論語」をはじめ、中国の古典を学ぶことも大切である。昨今、私は歴史に関心をもって読み始めている。

ところで、「一日で一番楽しい時はいつですか」あるいは「今すべての条件が満たされたとして何がやりたいかないしは欲しいか」というような質問をすれば、各人それぞれ異なる回答がでてくる。答を見聞きしただけでも結構面白い。その人がどんなことに興味を持ち、考えているかがわかるからだ。

今の私は、夜8時頃から夜11時頃まで、事務所でただ一人自分の好きなことをするのが最高の幸せであり、贅沢なのです。その時間帯に日本史のテキストを読みたいのですが、うまく時間配分ができません。残念です。

8 犯罪の増大を考える

刑務所・留置所が溢れているとのこと。だから、早めに仮出所させたら、とんでもない犯罪を犯す。逮捕するにも警察の留置所がいっぱいのため時期を延ばさざるを得ないこともあるらしい。世の中どないになっているのかといいたくなる。とにかく、青少年犯罪がやたらに増加傾向にあるそうだ。刑務所の新築が急がれているのが現状である。

ところで、岡山は検察官に嫌がられ、警察庁からもやりにくいところと煙たがられている札付きの県らしい。要するに、優秀な警察官がいて、頭のいい

い犯罪者がこちらも「ひとすじなわではない」ということらしい。裏を返せば、双方とも頭脳のレベルが最高水準に達しているということだ。

青少年犯罪が、なぜ多いのかの理由はいろいろあるのだろうが、教育現場の荒れがあるのではないか。大学を出たホヤホヤの若者を仲間同士で先生・先生というのがよくない。子供の教育もまともにできないのに、のぼせ上がるからだ。また、最高の地位にいる小泉総理は、大いに発言を注意しないと教育上よくない。「その程度のことはたいしたことではない」とか「人生いろいろいるだ」など、無責任な態度やチャカシたり、人を食ったような発言が目立つ。私は以前において好意的だったが、最近は嫌気がさしている。テレビに一番多く出るのは総理であり、子供がそれに影響されてまねるのだ。教育上、非常に問題であると思う。最高の地位にある総理大臣は、自分の言動が国民、特に青少年に与える影響をよく考えて、模範を示す必要があり、不用意な発言をする人は辞めてもらわないと青少年犯罪が、加速して増える恐れがある。本当に将来を心配しているのは、私だけではないはず。

9 私は、暇なのです

よく考えてみれば、私は、つまるところ暇であることがわかりました。不動産鑑定士ですが、制度上指導鑑定士として後進の資格取得のために実務修習させる義務があり、指揮監督の立場にたって指導しているので、自ら行う実務の仕事量はかなり軽減しています。反面、それだけ責任は重くなっていますが・・・。

そこで、自分で仕事を作ってあちこちの勉強会や講習会のたぐいに出席して質問を繰り返しています。また、岡山経済同友会をはじめ、好きな同好会の活動に参加しているというのが実態です。要するに暇なのです。ですから、雑巾がけ・拭き掃除や、籠かきなど、なんでもやりますから使ってください。お願いしますというのが現在の私の心境です。いずれにしる、じっとしているのが嫌いなので、動きながら考える。走れば知恵が湧く。

尚、前に私が書きました岡山市を相手にした固定資産税課税の取消を求める行政訴訟は、学問的には重要な問題を含んでいるため、最高裁の判断を仰ぐことになると考えています。勝訴するまで元気でガンバラなくてはなりません。一般市民にあっては、一生のうちで最高裁の判断を仰ぐような重要な問題と取り組むことは、そうめったにはないと思います。サポートしてくれている人たちの気持ちを大切に、最後までやり抜きたいものです。私の残りの人生は30年と見積もっています。その間に何が残せるか、また元気で健康に仕事をすることを考えて、一念発起して完全に酒をやめました。健康状

態はすこぶるよろしい。何事も、人生意気を感じるという心意気でやりましょう。皆様方にとって、私の言動が、一つの人生の生き方として参考になれば幸いです。

寒さ尚厳しいですが、雪が積もらないだけ恵まれたところに住んでいる幸せをありがたく思いたいものです。今日は、この辺で、ではまた。

H17.2.8 馬場勉 記

事務所・岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送K S B会館4

TEL 086(222)6591 FAX 086(223)5839



梅雨時です。一服しましょう。

年の半ば、疲れを癒して、英気を養い、今年の後半戦を元気に乗り切ろう。

1 紀行文執筆のための旅を

仕事を兼ねて県外へ出ることも多い。「仕事 = 遊び = 楽しみ」を感じたままに、綴ってみるのも面白いと思うようになった。

旅するときに、徹底的に案内本等を読んで事前の準備に余念が無く、見落とすところの無いようにくまなく見てまわり、写真やビデオを整理して、誰かれとなく旅の話をするタイプの人。反面、対照的なタイプは、ほとんど調査もせず、ぶらっと行って見てまわり、直感的に肌で感じて帰る。写真などを撮っても楽しみで写すのであって、整理もほどほどに旅のことなど忘れて無頓着になっているような人。あなたはどちらに近いタイプの人ですか？前者・後者のいずれにもつかない中途半端もまたよろしい。

私は、後者の方でしょうか。案内図書の類は買うのですが、必要に応じてみる程度で、行き当たりバッタリで、後で「しまった、みるのを忘れた」と後悔しても後の祭りということもある。いい場所だったら、またの機会に行けば楽しみも増えるからそれも善しである。このタイプのいいところは、他の人が感じないような些細なことを発見していることであり、直感でそれなりに自分のものにすることができるのである。

先般、岡山市の姉妹都市のひとつである韓国の富川市とソウルに行った時の紀行文を書いたので、別紙として載せました。読んでみてくだされば幸いです。ただ、平成17年6月8日付の岡山日日新聞に「韓国駆け足旅行」のタイトルで掲載されていますので、重複しています。(部分的には違うところがありますがお許しの程を)既に、お読みの方もいらっしゃるかと思いますが。

2 戦後60年に思いを馳せ

小泉総理の靖国神社参拝問題など、中国をはじめとするアジアの人々との摩擦など、国際関係は難しい。正直なところ、私はこのような問題はよく理解していないので本当のところ分からない。私は戦前の生まれだから、60才以上になったことだけは事実である。ただ、年相応に通常は見てくれないので嬉しいやら貫禄の無い青二才であることを嘆いている。戦争で人生が狂った人たちは概ね75才前後以上の人たちである。一昔前までは、よく戦争体験をとうとうと話す人が結構いたのだが、最近はほとんどいなくなった。生きるか死ぬかの瀬戸際で、弾の中を、あるいは食べるものが無く何でも食べた人達が、思い出すのが嫌だろうと思われるのに、みんなに過去の戦争談を話して聞かせた。何故か？疑問に思うが、どうも私たちは人生において命がけの生活体験をする機会が少なく、戦争体験のみが皮肉にも人生の最も充実し、かつ凝縮したときだったということか。

こと然^{さよう}様にわが人生も振り返れば、人様に話して聞いてもらうような壮絶な人生体験もないということである。おそらく多くの人がそうであろうが、世の中には稀有な人生を歩む人がいるから、そういう人は人生が充実していたと思われがちである。要は、我々の人生のうちの数年間、受験のためあるいは事業を興すために寝食を忘れて頑張ったという命がけの濃密な体験をすることは、将来のために役にたつと思われる。つまり、NHKのプロジェクトXに取り上げられるような体験談になるのかもしれない。

私は、今年に入って2ヶ所の戦争物語のところに行った。まず、第1は鹿児島^{ちらん}の知覧特攻平和会館である。知覧はシランという人も多いが、戦争末期に特攻隊として飛行機の発進基地となったところだ。多くの遺品や記念品が残されている。小泉総理は男泣きしたというが、私は別段涙は出なかった。が、しかし、人生の先輩の行動や思考形態は、得るところが多かった。帰途立ち寄った鹿児島市内にある「維新ふるさと館」には特に感銘を受けた。すなわち、限られた範囲内の下級武士の地域から大久保利通・西郷隆盛・松方正義など、明治維新を推進した偉人たちの活躍を目にした時には、こういう場所から現在の日本は形成されたのかと感動した。

つぎに、広島県の呉市に今春誕生した戦艦大和を10分の1に縮尺した模型（実物に酷似しているのだが）を展示している大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）に2度行ったことだ。今は亡き叔父は、戦艦大和の生き残り兵

として負傷しながらも元気に農業に従事して一生を終えた。よく大和の話を、酒を飲みながらしてくれていたのも、今は懐かしい。馬鹿でかい船を造る能力を持っていた呉の造船所の技術は、戦後日本の復興の原動力として、ずいぶんものづくりに貢献したということをおぼえてはいいない。

これらを通じて思うことは、平和ボケしている現在の日本が繁栄してきたのは戦争を戦ってきたこれらの人々の純粋な思いと、命をかけた戦いがあったお陰だと考えるに至ったこと。戦後60年。団塊の世代の人が停年を迎えるときが来るのであって、戦争を知っている人たちはだんだんと亡くなっていき、あと少しすれば戦争を知らない人の社会になるということだ。近い将来は、政治家がいろいろ立派なことを言っても体験していないことであり、イスに座って条文を前提に理屈を組み立てているのにすぎないことになるだろう。防衛も必要であり、平和憲法も大切にすべきだろう。つまるところ、どうすればよいのかを考えなければなるまい。できるだけ、知覧や大和などを見聞してみる必要があるだろう。その上でどうすべきかを再度考えてみてはどうでしょうか。私はこれから機会を得て、見て聞いて考えてみたいと思う。75才前後以上の方は戦争体験を残して欲しいと思う。そうすることが、日本が変な方向に走らず、平和な国として世界に貢献できるのだろうと思う。戦争を知らない世代に語り継ぐ義務があるともいえます。皆さんはどう思われますか。

NHKの番組に、戦争体験を語るものがあります。

3 瀬戸内寂聴の言葉

なにげなくテレビから聞こえた話。82才になる著名な恋多き作家瀬戸内さんが、住職を辞するに際してのインタビューで残った言葉。多情な人の凝縮された一言は「やさしさ」が大切だということだった。そのためには空想をたくさんせよ、そうするためには本を読んで欲しいというような主旨だった。82才の人生体験で筆舌に表せないような恋の別れを重ねてきた人の真実の声は、「やさしさ」という単純な一言だったのは意外だったが、男女間の真理は単純なのであろう。私も何かの機会に女性が求めるものは、本当のやさしさだと書いたことがあった。先輩の瀬戸内さんにほんのわずか近づけたということか。うれしいかぎりですが、まだまだ未熟者です。人生を見極めることが大切でしょう。まだ年季が入っていません。瀬戸内さんの年まで20年ありますから、体に気を付けて文章を書き続けて「やさしさ」を会得したいものです。

4 100円SHOPダイソーの教訓

今をときめくダイソー。知らない人がいないほどの100円ショップである。(国内に2,400店舗、海外に300店舗、売上高3,200億円、本社 東広島市)社長は矢野博丈さん(61才)といい、中央大学(私と同じ大学のOBになる)を卒業後、転職を9回したそうです。ひよんなことから100円均一で販売したところ、当たったという事だ。

朝日新聞の平成17年6月8日の朝刊に「明日の君たちへ」という就職アドバイス記事に「21世紀は『縮む世紀』現実を踏み越えよ」というタイトルで、一代記を書いている。参考になるので、矢野語録を拾い読みで抜粋してみます。

26才で、現在の1億円くらいの借金を背負って家族で東京に夜逃げした。人生終わったなと思ったよ。

百科事典のセールス、ちり紙交換。貧乏のどん底だったが、それまでに越えたハードルが高くて鍛えられた分、楽だったよね。

人生は我慢じゃね。耐えて、耐えて、耐え抜くしかない。人生で本当の痛みを知らないと、本当の力はつかない。20世紀は成功というシュミレーションが成り立った。だが、21世紀はそれほど好意的な環境ではない。「縮む世紀」だから。いい大学を出たからってイコール出世という時代ではない。耐える力が必要なんだ。歯を食いしばって生きなくてはならない。

人様よりいいモノを出して、さらにまじめに働いた。100円均一にしたのも、値段を付ける暇がなかったから。

もう面倒だって。戦略があったわけじゃない。仕方なしにただけだよ。

痛みから脱出するのが人生。苦しいのは授業料みたいなものだよ。苦しい練習を多くした方が勝つスポーツと同じだ。

小売業は「ここでいい」と止まれんもの。お客さんに飽きられたらつぶれるけー。いま、日本のお客さんは世界一うるさいお客になった。

昨日と同じ店は許されない。うちには経営計画もないよ。ただ、目の前を一生懸命、行き当たりばったりにするしかない。

21世紀は「下がる時代」だから、もう人生設計なんて立てられない。学生が将来が分からないように、企業も先が読めない。必死に防衛する時代だよ。学生も夢は幻だと気づかされるような現実を一つひとつ踏み越えていかないと、人生をつくることはできない。

以上は、矢野さんの真髓を表現した言葉です。

厳しい、商売の時代です。最高利益を上げているという企業も多いようですが、リストラと省力化・合理化等の結果です。リストラのできる企業はいい

のですが、中小・零細企業では人情が絡んでおいそれとは出来にくい。思うように利益が上げられない地方（特に倉敷地区）の“不動産業”はどうすればよいかと思案している人も多いでしょうが、矢野社長の話を心に秘めてがんばりましょう。ただ、時代の風を読むことは必要です。待ちの姿勢ではうまくいかないかも。前向きな姿勢で一所懸命にやる以外に良策はなさそうですから。

H17.6.10 馬場勉 記

(別紙)

韓国処女旅行記

韓国は、近くて遠い国。岡山から仁川国際空港まで1時間余の空の旅。軽食とお茶をとっている間に着く。ほぼ東京と岡山間の距離だが、出入国に随分手間がかかり、煩わしい。靴の底まで調べられるし、パスポートを何回も見せる。韓国は戦時下であり、朝鮮戦争勃発から約55年、38度線を境ににらみ合いがいまだ現実として続いているのであって、政治・経済体制が異なる同胞なのである。朝鮮戦争による離散家族は悲劇であり、老いていく人たちは高齢化が進んでいる。韓国では大学生を含む徴兵制が現に存在する。

「教育立国」の旗印の下、英才教育がすごいらしい。ステータスの高い大学に行って大企業に就職し、いい結婚をするのが夢。日本がたどってきた、いつかきた道を歩んでいる。子供の自殺者が、日本とは異なり、目立つそうだ。

マンションに入居するのも、家賃を支払うという慣習が無いようで、入居時に多額の敷金(?)を納める。家主は金利(家賃)稼ぎをするというシステム。地価高騰が続いているらしく、ソウルの一番高い地価は、坪当たり800万円くらいするとのこと。コンビニの時給が200円程らしい。日本より全般に2~3割物価は安いそうだ。

ソウルの夜は繁華街をチョットだけ見聞したが、ネオンサインなどは統一がとれていて、明るくてきれいな街並みだと思った。ビラ配りや客引きのたぐいは一見した限定的な範囲内ではみられなかった。添乗員さんや企画ツアーリストさんは、客の要望に応えなければならず仕事とはいえ大変だ。慣れればどうということもなく、ビジネスになるのだろうが……。たとえば、なんとかショーに案内するとか、その他諸々のお客の必要に応じなければということだ。

地価は有名大学に多く入れる学校のある学区が、教育熱心な親の志向に合うため、競争原理が働いて高いんだそうだ。だから、高層アパートの立つところの方が、中心部に近く高級住宅地と思われる良好な土地柄より土地の値段は高いそうだ。現代韓国を象徴しているような土地価格を形成している。ソウルは高層アパート群と広い道路(もし有事の際には、滑走路として、使用される任務も負っている)が印象に残った。岩山が多く緑は全般的に少ない感じだった。

相対的に、日本人が誤解していると思われるのが「あかすり」。韓国は寒い

国だから、風呂にゆっくり入るという習慣があまりないらしく、2週間もたてば垢がたまるので、垢落とし専門の業界が繁盛するということらしい。男は男を、女は女を擦るのだそうです。すけべえ心の日本人は期待をうらぎられるらしいとのことだった。

韓国の女性は喋り方がすごい。普通に話をしていても、少し興奮すると、そばで聴いていると喧嘩をしているようにとれる。家庭では旦那にやさしいそうですが・・・。

色白の美人が多いような気がした。地震の少ない国のため高層アパートやマンション群が多くみられる。反面、温泉は少ないようで、日本の温泉めぐりに訪れる韓国の観光客が多いのも特徴。街の治安は悪くないとのこと。がしかし、韓国人は日本人とよく顔だちが似ているため、高額で裏取引されるパスポートを狙うスリが多いらしいから要注意。街はハングル語の看板だらけだから、さっぱり様子がわからないが、日本語の話せる人が多いのも特筆すべき点。夫婦別姓だから、結婚しても日本のように名前を変えて同じ姓になることは無い。子供は男性の姓を名乗るのだそうだ。若い学生さんはハングル語で自分の名前を表示しているが、通常は漢字で書いた名札をつける人がまだ多いようだ。併記されている状況。

漫遊記を書いたのは、先日、岡山市と友好交流協定を締結している韓国の富川(プジョン)市を訪問し、さらに、足を伸ばして隣接するソウルに岡山市民友好親善訪韓団の一人として参加した時の率直な印象を、若干の脚色を加えて書いたものです。韓流ブームに便乗した、はじめての韓国旅行のため体験談などに誤解の部分があるかもしれないものの、そこは隣国の友情に免じてお許しを。訪問団は歓迎され、盛り上がり楽しいものでした。ほとぼりの冷めないうちに、個人的に行ってみたいな～。

事務所・岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送K S B会館4

TEL 086(222)6591 FAX 086(223)5839

深まりつつある秋を堪能しよう！



今年は色々なことがあった。人生いろいろ、世の中いろいろだった。歴史の勉強をすることにより、身の処し方を学び、取り返しのつかない失敗をしないようにしたいものです。

私が、岡山市長に推薦していた高谷茂男さんが当選して嬉しかった。皆様には大変御世話になりありがとうございます。

1 海外の親善視察旅行へ

今年は親善視察旅行に4回海外に行きました。

- ① 5月5日から5月7日 韓国（富川市）
- ② 7月25日から8月2日 コスタリカ等
- ③ 8月26日から8月31日 極東ロシア
- ④ 9月30日から10月3日 台湾（新竹市）

①と③については紀行文をすでに新聞等で書いていますので、②と④について面白おかしく書いてみます。遊びに行っていると思われるのは心外ですから。非常にまじめに勉強していることの成果を発表します。

2 中南米のコスタリカ等

コスタリカといってもどこにあるのか知らないというのが本当のところ。私もその部類に属していたのですが、岡山市と姉妹縁組であり、親密な関係にある。岡山市長をはじめ、約20名で行きました。飛行機を8回乗り換えたので忙しい旅でした。岡山空港からソウルへ行き途中下車。韓国の富川市へ表敬訪問のため立ち寄り、その日の内にソウルからロサンゼルスへ直行便で夜間飛行でした。大韓航空を利用したのは、運賃が安いからです。墜落したのは昔の話。今は立派な機体で大丈夫というのが印象でした。スチュワーデス（キャビンアテンダント）さんの顔立ちが皆さんよく似ているのです。不思議に思った。事情通の同行の女性の講釈では美容整形をするのだそうで、

韓国ではあたりまえのこと。抵抗感はないようです。顔の原形は変えられませんが、造作は眉毛・目・鼻などは、一定のパターンがあって変えるようです。特にまつ毛は刺青にしているとのこと。鼻も一定の高さに整形しており、目は二重まぶたというのが標準的な顔立ちというところのようです。いずれもすらっとした姿勢の美人ぞろいです。

ロサンゼルス夜景はすごい。函館・六甲などの比ではありません。不夜城のような街並みがかたまりになって、延々と続いていました。二度見しましたが、すばらしいの一語につきます。三浦某氏のロス事件がありました。あの事件はその後どうなったのでしょうか？ どうでもよいことなのですが・・・

ロサンゼルスからシアトルへ行き、岡山市にある禅宗（臨済宗妙心寺派）の曹源寺の別院を訪問した。ウィッドピー島というところであって、末期がんなどのホスピスをボランティアで行なっている。

シアトルではイチロー（シアトルマリナーズ所属）のメジャー野球を観た。大変な大入りで4.7万人入る球場もほぼ満席。イチロー人気は大変なもので現地の子供たちの声援は大きかった。イチローはお金が稼げる選手だ。フットワークがよい。観るものをして魅了するところがすばらしい。夜9時頃まで明るい。太陽が沈みだすと、急に暗くなる。

第二の訪問先はシアトルからポートランド経由で、バスによりペンドルトンというインディアンのウマティラ部族連合を訪問して歓迎晩餐会で親善交流した。新しく岡山市が姉妹縁組しようとしているところで、第7番目にあたる縁組先になる予定のところ。ウマティラインディアン居留区は独立した自治区であり、カジノを経営しているため、お金はあるとのことだった。要するに交流が継続的に可能ということです。

ペンドルトンは赤茶けた大地という感じ。緑が少ない。日本には見られない、大味の地勢の大地である。広大でスケールはでかい。

いい忘れたが、ロサンゼルス空港に着いた時には驚いた。色の黒い人や白い人や黄色い人や、いろんな人種が混在している。また、相撲取りの小錦に匹敵するような巨漢の人がゴロゴロしている。日本人が太ったので痩せたいとエステなどに励むのもわかるが、日本人はたかが知れているので心配無用というところだ。ウマティラ部族の原住民の血を引いている人にも同様の体格の立派な人の傾向が見られた。遺伝子の問題であろうから、どうすることもできない面もある。最近のテレビ報道などでは腸を短くする手術をすればかなり痩せる効果はあるらしいから、気になる人は試みたらどうか？ 日本では保険適用外かもしれませんが、念のため。

ペンドルトンからバスでポートランドへ。アラスカ航空でロサンゼルスへさらに乗り継ぎ、ラクサ航空にてコスタリカへ飛んだ。コスタリカのサンホセ市で、歓迎式典があった。サンホセ市は中南米では岡山市によく似ていて、気候が温暖なため住むのはよい。所得税がいらないうで、関税と消費税が中心なので金持ち天国である。アメリカから老後を過ごすために移住する人は多い。日本人もいる。とにかく世界中どこに行っても日本人は生活している。ただ、コスタリカは貧富の差は大きく、立派な家もあればみすぼらしい家も目立つ。スペイン語の国である。大航海時代にスペインが領土としたところである。夜はオペラ鑑賞をしたが日本人による、マダムバタフライという内容であった。日本人が地球の反対側まで進出してオペラをやるとは、いやはや少し驚きました。サンホセ市には岡山公園という都市公園があり、桃太郎の銅像などがある。サンホセ市の職員が岡山市役所に派遣されたことがあり、岡山の造園技術が導入されている。

日本大使館を表敬訪問。驚見（すみ）大使よりコスタリカの状況説明があった。私は、生活するにはいいところだから住みたいとは思いますが、日本から遠いのとスペイン語が話せないと生活しにくいいため断念。コスタリカの人は安産型で腰がしっかりしている。コスタリカの人がミス・ユニバースになったぐらいだから、みんなとは言わないが美人はいる。ミス・ユニバースで優勝した人が現在の大統領夫人とのことである。後日、あらためて大統領及び夫人は来日し、愛知万博の帰りに岡山に立ち寄った。記念に、岡山駅西の広場に大統領が名前（サンホセ・スクエア）を命名した。

3 台湾（新竹市・台北市）の巻

台湾といえば何だか遊びに行くのかと偏見を持っている人がいるが、間違いだ。台湾の人は親近感があって日本に大変感謝の念をもち兄貴分として捉えている。終戦まで50年間、日本の領土として統治し、日本語教育をして、建物・橋・道路などのインフラ整備に力を注いだのである。これらの行動が日本は台湾からいい印象をもたらしている。何分にも九州くらいの国土しかないため、国力は全体的には劣る。独自のブランド商品が無いので下請けの仕事が多いようである。この度の旅は朝かけ夜うちの旅行であった。朝5時出発でバスに乗り岡山市から関西空港へ。日本アジア航空にて台湾へ。岡山市と姉妹縁組にある新竹市を表敬訪問。ビーフン・肉団子祭りなどに参加した。全体的に食事はよい。台湾の料理は結構いける。台湾ビールは私の口には味が合わなかった。道教が宗教として栄えている。

話は昔にさかのぼるが、御津町の金川に旧制金川中学というのがあった。

現在、御津町は岡山市になっている。金川高校の前進である。旧制金川中学は私立であった。戦前では珍しく台湾・中国・韓国等より留学生を受け入れていた。留学生として金川中学に来ていた人が中壠（ちゅうれき）市住んでいて是非立ち寄って欲しいということで、お邪魔した。一族郎党がロータリークラブの会場に集まり一代記を話されて土産をくださった。80才後半の方だったがお元気で昔の学生の頃のことをよく覚えていらっしゃるのには驚いた。一般に台湾の人との付き合いはどちらかといえば派手でにぎやかという点が指摘されているが、そういう面は確かにある。物価は日本と同じレベルで安くはない。

台北市に移りオプショナルツアーを楽しみにしていたが、台風が台湾を直撃して変更。台風は、南を通過したため台北市は直撃を免れたので、さほどではなかった。台湾は東側に山脈が連なり、西側は平地で人が多く住んでいる地勢である。台湾エステを勧められて行った。岡山でやっているような小規模なものではなく、大規模店で本格的な商売、すなわち営業という感じ。24時間営業である。台風のため行くところが無く免税店とみやげ物店などをバスで連れまわされたのには少しうんざりした。岡山へ関西空港からバスで深夜に帰岡した。それにしても岡山市の幹部や秘書官の人は見送りやお出迎えなどいつもご苦労さんです。しないよりはする方がいいでしょうが、そんなにすることはないのではないかとも思う。岡山市長も代わりました。こういう送り迎えの慣行はほどほどにしたほうがよいような気がします。その方が行財政改革の趣旨にも合致するのではないのでしょうか。考え直してみる必要があります。仮に送り迎えをすとしても、最小限の人数に限ればよいのではないかと思われませんがいかがでしょうか？

4 岡山市長の交代

岡山市では、10月9日に選挙があり、たかや茂男さんが大差で勝ちました。たかや茂男さんを応援した者として、みなさんのご支援に感謝申し上げます。全体の流れの中で超短期の勝負でしたから大変だっただけに、よく選挙活動の内容が見えました。下働きに徹する人、恰好よくふるまう人、当選祝いの時に前の方で万歳するちゃっかり組、いろいろな人間行動が観察できました。なお、選挙については「ビジョン岡山」の平成17年10月17日号を見てくだされば幸甚です。

余談ですが、私は岡山のまちづくりに情熱を燃やしています。どのような都市（まち）並がよいのかを研究中です。国内はもちろん、国外の都市を見聞して参考にしているのが現状です。これからも積極的に都市を見て、そこ

に生活している人達がどのような考え方により自分たちの都市が好きになり、愛しているのかを知りたい。私は岡山が好きです。岡山の発展を望み、その方策を日夜考えている者です。ご指導の程をお願いします。

H17. 10. 11 馬場勉 記

事務所・岡山市大供3丁目1-18
瀬戸内海放送K S B会館4
TEL 086(222)6591 FAX 086(223)5839